

さよなら原発！ さよなら空母！

プラトニウムフリーコミュニケーション神奈川

2013年9月27日 第9号

福島は今も放射能の中

報告：久保博夫（神奈川ピースサイクル）

六ヶ所ピースサイクルの途中、8月17&18日に、反原発自治体議員・市民連盟が主催の「福島をわすれない・全国シンポジウム」に参加しました。

会場の福島ビューホテルには、自治体議員、地元の住職・酪農家・企業家などの地元福島の方々。泊、東海原発現地からをはじめ、遠く関西からをふくめて約110名が参加。17日(土)午後のシンポはピースから7名、交流会には久保が参加し、神奈川ピースサイクルの一員の横須賀の山城市議を始め茅ヶ崎の日下

県議や神奈川ネットなどの議員らとお会いできました。

17日のシンポジウム報告者は、吉岡棟憲氏（円通寺住職）、菅野清一氏（川俣町議会議員）、長谷川健一氏（飯館村酪農家）、高橋道弘氏（川俣町議会議員）、三瓶宝次氏（浪江町議会議員）、菅野喜明氏（伊達市議会議員）、松本静夫氏（葛尾村議会議員）。

円通寺住職吉岡棟憲さんは、冊子「原発事故さえなければ通信」で本当の福島を知らせている。阿武隈川の灯籠流しも川底の放射性物質蓄積で灯籠飾りに、防護服を着て墓参

ヒロシマ・ナガサキ・六ヶ所へ ピースサイクル2013

六ヶ所ピース8月16日～26日

ピースサイクルは、平和や脱原発の想いなどを市民や市民団体、自治体等からピースメッセージとしてお預かりし、到着地のオキナワ・ヒロシマ・ナガサキ・六ヶ所に届けています。そのために、地域での交流会や自治体訪問などを重ね、原発や基地等への申し入れ行動も重ねています。(8/16 東海村⇒8/26 六ヶ所村)

りするなんて、福島自治体は総て国の下請けだ、と穏やかに怒りを伝えた。浪江町では月一人当たり10万円の賠償費を6倍に増額を求める、当然だ。

川俣町議員：除染後の廃棄物を農地に5段重ねしている、福島のワタムシの1割に奇形が出た、虫の異常が多く鳥が減っていて生態系異常が心配だ。

飯館村酪農家：4月に計画的避難地域を発表。そこで遊んでも大丈夫、マスク外して大丈夫などの「安全説法」。村長は村を守るが、私は命を守る。除染は国のいいなり、帰りたい帰れない人へのケアが全く無い、なぜ飯館村だけ年間5mSvなのか？

平和のためにできること **まもろう！平和憲法**
なくそう！原発・核兵器

あなたも参加してみませんか？
部分走行大歓迎！
詳しい情報はこちらをご覧ください
<http://blog.peace-cycle.main.jp/>

2013 沖縄ピースサイクル 6-20 国際反戦集会

6/6-8 ナガサキ行動 8/7 平和を考えるナガサキ集会 8/8 ピースウィーク長崎集会

8/16-18 ヒロシマ行動 8/15 ヒロシマ平和へのつどい グランドピースのつどい

8/18-20 六ヶ所行動

2011年3月11日 東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします

- ★ 原発・核燃料再処理工場の危険から人間と自然環境を守ろう！再生エネルギーへ転換させよう！
- ★ オスプレイの配備など米軍基地強化に反対、集団的自衛権行使を認めない！憲法9条を広めよう！
- ★ 生活保護の削減反対！労働者の首切り、労働条件の改善を許さな！TPP参加反対！

三つのスローガンの上の訴え(囲み)で原発による放射能被害を受けている福島をはじめとする子供たちを守ろう！

ピースサイクル全国共同代表 首領 吉野 若瀬 / 丸山 山崎 広島 / 伊瀬 九州 / 桜江 福岡

*日付は出発日です。変更もあり。詳細は各地域ネットへ

翌18日(日)は、地元自治体議員の方々の案内で被害現地を訪問。ここにも車2台で同行させてもらいました。

最初に福島市内の仮設住宅。平屋建てプレハブ住宅がずらっと並ぶ。学校の体育館まわりに400戸が避難して入居し

た。

飯館村に入ると田んぼに稲穂がなく草ぼうぼう。家という家に人の気配無くミートプラザと大書したドライブインも閉鎖。2011年3月15日に放射能の雨が降った。あちこちの道が通行止め。

川俣町山木屋も同様で、人の気配が無く家が泣いているよう。放射性物質は谷沿いの上昇気流に乗り木に当たって落ちた。田んぼには沢山のブルーシート。バスの中でも $2.3\mu\text{Sv}$ 。

浪江町へのゲートは警察管理、そこで神奈川で借りてきた線量計ではかり、 $5.7\mu\text{Sv}$ 。ゲートの向こうの浪江町などでは恐ろしい数字なのだろう。

葛尾村では住居回り20mが除染された。道路沿いに掲げられた「除染作業中」の旗とジョイントベンチャーの立て看板。一日に300tも除染廃棄物が溜まっていく。

福島に戻る途中、国の除染による大量の廃棄物以外に、地域の人が除染した黒ビニールが5~10個ぐらいつつ生活道路の脇に500mぐらい毎に10km近く並んでいた。

福島の人々はこの放射能と日常的に何十年も付き合うしかないのだと実感した。



プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川からはピースサイクルに青森県、六ヶ所村、日本原燃に対する「福島原発事故を受け、核燃料サイクルからの撤退を求める要望書」を託しました。青森県には次の行動を起こすことを要望しました。

1. 青森県として、今後、核燃料サイクルから撤退する方針を表明すること。
2. 使用済み核燃料の再処理、核燃料サイクル計画をすべて中止することを、政府、電力業界、日本原燃に対して要望すること。
3. 東通原発の廃炉、大間原発の建設中止を政府及び事業者に対して要望すること。
4. すでに発生した高レベル放射性廃液を固化体に成型する技術を、国産技術にこだわらず速やかに確立するよう政府及び日本原燃(株)に要望すること。
5. 「再処理」や「直接処分」に代わる、使用済み核燃料の処理方法として、「長期貯蔵管理」を政府に提案し、むつりサイクル燃料貯蔵施設を長期貯蔵管理のモデル施設として位置付けるように政府に要望すること。
6. 現在プールで貯蔵されている使用済み核燃料を乾式貯蔵に切り替えることとし、どこでだれが長期貯蔵管理を行うのかについては国民的な議論で決めるように政府に要望すること。

「三者に提出した要望書の全文はプルトニウムフリー神奈川のブログをご覧ください。」



福島を愛する人たちと新たなつながいを

「脱原発市民会議かながわ」相馬野馬追&福島スタディツアーに参加して

「脱原発市民会議かながわ」でお世話になった、スペースオルタの佐藤真起さんの企画で、2013年7月27日~29日に福島県田村市、南相馬市、伊達市、浪江町などを訪問。南相馬市から避難して横浜で生活している村田さんの案内で伝統行事の相馬野馬追を観覧し、横浜と御縁のある方たちを通して、放射能汚染の問題と向き合いながら福島で

元気に頑張っている皆さんとつながりを持つことができました。

自分たちが育てた野菜などに含まれる放射性セシウムの数値を、政府の基準の100ベ



クレル以下ではなく、自分たちで一桁まで測って確かめ、きちんと表示して消費者に選んでもらう。事故から2年目の夏にお店を開店できるころまで、やっとたどり着いた大河

原伸さん(前ページ写真中央)、多津子さん夫妻、それを手伝うために横浜から故郷に戻ることを決意した伸さんの姉のさきさん。「安全キャンペーン」に抗いながら、福島で有機農業を続けたいという苦闘



の中から、明るく笑顔に満ちたお店「えすべり」が誕生し、おおぜいのお客さんで賑わっていました。生産者と消費者の信頼関係を大切にしたい、こんなお店をもっともっと増やせるように支えていきたいですね。スーパーで買うのをずっとやめていた「しいたけ」をまとめて買って、友人へのお土産にしました。

旅の最後に村田さんの自宅を訪れました。周辺からはちょっと小高い丘、木々が茂った道にさしかかると、持参した空間放射線測定器の数値が上がり始め、ホットスポットだということが分かります。放射性プルームによって他の場所よりも強く汚染されてしまったことは、測定器がなければわかりません。地震でなにも壊れていないのに人生の計画を突然変更させられ、快適に暮らしてい

た我が家に戻ることができない無念さ、東京電力への怒りはどれほどだろうかと想像すると言葉もありません。

復興に向けて作業が進む相馬市松川浦とやっと日中の立ち入りができるようになったばかりの浪江町請戸との対照的な状況。横浜で有機野菜の八百屋をやっていた関さんが、現在、事務局長として活躍している「りょうぜん里山がっこう」にも1泊して交流。伊達市の除染基地などを案内して

いただきました。まだまだ、書ききれないことばかりです。このツアーで再会した方や出会った方とのつながりを大切に、福島で放射能汚染の現実と向き合って頑張っている皆さんと連携していきたいと思います。

そして、福島でも神奈川でも、外部被曝も内部被曝もできる限り減らしていくための対策が重要です。神奈川で暮らしている私たちの身の回りでも、ちりやほこりに放射性セシウムが含まれています。空間放射線量が他よりも高い場所は要注意です。未だ収束していない福島原発からは、海へ、空へ放射性物質が漏れ出し続けています。東京電力と原子力ムラの面々にはきちんと責任をとらせ、原発をやめる政権を実現しましょう。(Y. M.)

「えすべり」は(株)吉から屋が運営する、野菜・果物などの青果物やパンなどの加工品を販売するお店。喫茶コーナー(前ページの写真)もある。「月巻くらぶ」に入ると、毎月1回、放射能測定済みの有機野菜や加工品を家庭に届けてくれる。1回だけのお試しも大歓迎！ Tel.0247-73-8075

<http://ichikaraya.web.fc2.com/>



『神奈川県原子力防災の抜本的見直しを求める提言』を提出しました

ストッププルトニウム神奈川連絡会では、一昨年5月23日、昨年7月9日、神奈川県知事あてに2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに連動した福島第一原発事故を契機とした神奈川における原子力防災の体制等について提言を行ってきました。

震災と原発事故から2年余りが経過した今年8月21日、新たな情報を加えて第3回目の提言を提出しました。

窓口対応は、神奈川県安全防災局安全防災部危機管理対策課危機管理対策グループです。原子力防災対策のほかに、放射能汚染や健康管理など様々な分野の提言を提出していますので、それぞれの担当部署に伝えていただくということでお約束しています。

2011年、2012年、2013年に提出した提言は「プルトニウムフリー神奈川のブログ」からダウンロードできます。



新潟県民を守るために、政府と東電に対して
 厳しい態度で頑張っている、泉田新潟県知事
 あてに激励のお手紙を出しました♪

新潟県知事 泉田 裕彦 様

はじめにお便り申し上げます。私達は、神奈川県に住む40人ほどの仲間で、反原発・反核燃料サイクル・反原子力空母の問題に約20年間取り組んでいるグループです。新潟県柏崎刈羽原発の再稼働問題で、東京電力の安全審査申請について了解しない方針を貫いておられる泉田知事について、私達は心から感動し敬意を表したいと思います。

福島第一原発事故から二年余り、事故の検証が済んでいない、誰も責任を取らない、原因がわからない、このような状態の中で、再稼働の合唱ばかりが聞こえてきます。選挙では原発推進の自民党が圧勝し、原発立地現地でさえ再稼働容認の声があがり、政府は原発輸出活動を強めております。

このような状態の中、泉田知事の力強くぶれないご発言は、元気を取り戻してしまっただけの原子力カマラへの警鐘であり、私達にとって力強い希望なのです。

汚染水問題は深刻さを増し、柏崎刈羽原発では地震の時1.5メートルの地盤沈下があったそうで、地震の恐ろしさを痛感しております。地震大国日本ではやはり原発はあまりに危険だと思います。どうぞこれからも、信念に基づくご発言を、周囲の圧力に負けずに続けてくださいますよう、一同心より願っております。

2013年9月15日

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川 定例会のお知らせ

日時 10月29日(火) 午前11時～午後2時

場所 神奈川県民活動サポートセンター 706号室
 アクセス：横浜駅西口ヨドバシカメラ裏

隠される福島原発の 今と、「復興」

…日本の方向

日時：10月19日(土)

午後2時～4時30分

(開場：午後1時30分)

会場：日本キリスト教団

神奈川教区大船教会

(大船駅東口から徒歩10分)

講師：山崎久隆さん

(たんぼぼ舎)

★資料代：500円

主催：日本キリスト教団神奈川

教区核問題小委員会

共催：プルトニウムフリーコ

ミュニケーション神奈川

★詳細は同封のチラシで…

経産省前テント広場2周年行動！

神奈川の5団体で茂木経済産業大臣宛に申し入れ書を提出しました。

『経済産業省は原子力行政の所管官庁であり、東京電力を指導し、原発事故対策を担当する立場にあるにもかかわらず、福島第一原発からの放射能汚染水漏れを看過し、事実上破たん状態にある東京電力を存続させることを前提として、この二年半にわたり東電が作成した事故処理計画を追認してきました。「もぐらたたき」と揶揄される東電の対策を承認した、経済産業省の責任は重いということをお覚すべきです。

経済産業省の責任を問い、しっかりやってほしいという悲痛な願いをもち、福島現地を始めとして全国から、そして世界各国から、多くの人々が経済産業省の前に足を運び、声をあげています。こうした私たちの思いを経済産業省に届けるために「テント」が存在し、福島原発事故が本当の意味で終息したと言える日まで「テント」は必要です。

経済産業省が厳しく向き合うべき相手は東京電力です。土地明け渡し訴訟を取り下げ、東電を解体し、政府が前面に立って抜本的な原発事故対策を進めてください。 2013年9月11日』

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川

〒221-0002 神奈川県横浜市神奈川区大口通 83-2-213 (水沢気付)

Tel&Fax.045-423-0341 pu-free-com@k.nifty.jp

http://pu-free-com-kana.cocolog-nifty.com/blog/